人権だより　令和５年度　第１号　令和５年４月　市川市立第四中学校　人権部会

日本における令和５年度の人権啓発重点目標

『誰か』のこと　　じゃない。

アフガン、女子教育に１３歳の壁

皆さんはアフガニスタンという国を知っていますか？　パキスタンとイランに挟まれた所に位置し、約１年半ほど前に日本やアメリカが支援してきた政権を崩壊させ、イスラム主義勢力・タリバンが権力を握るようになった国家です。タリバンは**女子中高生の通学を認めておらず**、該当する女子（約 130 万人）が教育の機会を奪われる「**13 歳の壁**」に苦しめられています。国際援助が減ったことで、経済の低迷や失業は深刻になり、干ばつで食べ物も足りない。このような中、栄養失調に苦しむ子供たちも多いといいます。その一例を以下に紹介します。

病院では生後３か月の赤ん坊が呼吸器をつけていた。隣にいた母親はまだ 15 歳。10 歳で五つ年上の男性と結婚し、13 歳で第一子をもうけた後、今年次男が生まれたという。夫は無職である。次男の体重は 2600ｇで通常の半分しかない。（令和４年８月、朝日新聞より）

小学校を卒業したばかりの女性が結婚して出産し、子育てをしているというのは決して特別な例ではありません。教育の機会を奪われ、貧困のために食べることもできない女性が生きていくにはやむを得ない事なのかも知れません。そしてお金のある男性と結婚しても、失業などにより貧困に陥ることも少なくないようです。他にも以下のような例があります。

学校に行ったことがなく、読み書きもほとんどできない 20 歳の女性は、17 歳の時、親戚の紹介で 20 歳年上の男性のもとに嫁ぎ、結納金として夫側から日本円で約 37 万円が支払われた。その後、タリバン政権が誕生すると、夫の収入はほぼなくなり、家族全員が飢える寸前に陥った。そこで、知人を通じて臓器売買のブローカーを見つけた。この女性は左の腎臓を切り、約 35 万円を受け取った。（朝日新聞より）

イスラム教の国々では**一夫多妻**が目立ち、この夫にも別の妻がいて、４子目を妊娠中だということです。多くの借金を抱える中で、家計をどうするのかと尋ねると、「**娘を売ろうと話し合っている**」とのこと。現代の日本ではこのようなことは考えられませんが、他国のこととして片づけてしまって良いのでしょうか。皆さんも真剣に考えてみて下さい。

日本の女性が置かれている状況は？

ある日の新聞に掲載されていた小さな記事が目に止まりました。その記事とは、「**女性の働きやすさ　日本はワースト２位**」というものでした。これはイギリスの雑誌エコノミストが発表したもので、主要 29 か国における 2022 年の女性の働きやすさランキングで、トップ４を北欧の国々が独占した一方で、**日本はワースト２位**、最下位は韓国だったということでした。エコノミストは日韓両国について「女性がいまだ家庭かキャリアかを選択しなければならない」と指摘していました。ランキングは、**男女間の賃金格差や育児休暇、子どもの教育にかかる費用、管理職や議会の女性比率**など、10 の指標に基づいて各国を評価したもので、これらの指標を見ると、確かに日本は欧米諸国に比べて遅れていると言わざるを得ないと感じました。特に「賃金の男女格差」は平均を下回り、「企業の管理職や議会に占める女性の割合」は 29 か国中最下位だったということです。将来の日本を創っていくのは皆さんです。どのような世の中にしていくべきかを一人ひとりが考え、行動していきましょう。